

釧路市教育委員会 令和6年第10回5月定例会会議録

1 日時：令和6年5月28日（火）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、靱山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、渡部給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曾根美術館長、秋葉博物館長、竹内スポーツ課長、平野ふれあい主幹、北村阿寒生涯学習課長

4 議事録署名人 靱山委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）キャリアシンポジウムの開催について

（2）令和6年度「少年の主張」釧路市大会の開催について

（3）第52回釧路湿原マラソンの開催について

（4）釧路市動物園及び所管施設における展示動物の動向について

（5）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

(1) キャリアシンポジウムの開催について

(森学校教育部次長)

報告事項1、キャリアシンポジウムの開催について報告する。

新中学校1年生を対象に、望ましい職業観や勤労観を養うとともに、中学校3年間のキャリアプラン形成を一助とすることを目的に、オンライン形式によるシンポジウムを開催する。

開催日時は、6月5日水曜日、10時15分から11時15分を予定している。

会場は、各中学校の教室等と釧路市中央図書館の多目的ホールをオンラインで中継し、小向 秀明 JC 理事長、岡部教育長のお二人のパネラーにより、「働くこと」、「生きがい」をテーマに、新中学校1年生に対してメッセージをいただく。コーディネーターは、統括的な地域学校協働活動推進員の森先生が務める。

なお、当日参加できない生徒のために、シンポジウムの模様は期間限定で動画配信し、全ての中学校1年生が本シンポジウムを視聴できるよう進めていく。

本シンポジウムを契機に、中学生の子供たちが「何のために働くのか」を自分の言葉で表現できるようになるなど、主体的に将来の生き方や生活につながる進路選択を実現できる資質・能力を身に付けることができるよう、今後も JC との連携協定を基本としながら、キャリア教育を進めていきたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

毎年、中身が濃くなり、バージョンアップしていると思う。教育長、JC 理事長には負担をかけるが、子どもたちのためによりしくお願いしたい。私たちも、中央図書館の会場、各学校での振り返りで北中学校に訪問したいと考えているので、お願いしたい。

【公開案件】報告事項

(2) 令和6年度「少年の主張」釧路市大会の開催について

(佐藤青少年育成センター所長)

報告事項2、令和6年度「少年の主張」釧路市大会の開催について報告する。

「少年の主張」釧路市大会は、青少年が日常生活の中での心からの思いや考え、感銘を受けたことなどを発表することで、社会の一員としての自覚と行動を促す契機とするとともに、市民が青少年の健全育成に対する理解と関心を深める一助とすることを目的に開催する。対象は、市内各中学校に在学している生徒となる。

それぞれの中学校から1名の代表者を選出していただき、今回は16名の発表で行う。日時と会場については、6月1日土曜日、13時30分からコーチャンフォー釧路文化ホールの小ホールにて審査員6名との対面方式で行う。発表者は1人5分程度の時間で発表を行い、その中から最優秀賞を1名選出し、釧路総合振興局地区大会の出場者として推薦をする。

また、当日は、オンライン配信を行うので、来場ができない友人や生徒、親族、学校関係者にも視聴していただけるよう、各学校へオンライン配信について周知をする。

また、どうしても当日参加やオンライン配信を視聴することができない方たちのために、後日、大会の様子を期間限定で動画配信して、子どもたちの発表を視聴できるよう進めていく。

本年度の「少年の主張」釧路市大会を契機に、中学生をはじめとする多くの子供たちが「社会の一員としての自覚と行動」を自分の言葉で表現できるようになるなど、主体的に将来の生き方や進路選択を実現できる資質・能力を身に付けることができるよう、次世代を担う子どもたちの青少年健全育成を努めて参りたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

(3) 第52回釧路湿原マラソンの開催について

(竹内スポーツ課長)

報告事項3、第52回釧路湿原マラソンの開催について報告する。

第52回釧路湿原マラソンが本年7月28日に開催される。申込期間は、5月1日から6月7日までとなっており、インターネットサービスのRUNNET（ランネット）により申し込むことができる。本大会のゲストランナーについては、小森コーポレーション陸上競技部に参加していただけることとなり、前回大会同様、盛り上がりが期待される場所である。すでに、新聞・専門誌への広告掲載や、釧路市LINE・SNSによる大会周知など、紙とデジタルの両媒体を活用した、幅広い周知活動を行っている。

また、本大会より暑さ対策のためスタート時間の変更、多くの参加者に完走していただくための30kmマラソンにおける25km地点の関門時間延長や、10kmマラソンのコース変更など、より多くの方が参加していただけるよう、新たな取組みを実施している。

子どもから大人まで、幅広い年代の方々にご参加いただき、市民のみなさまに愛されるスポーツイベントとなるよう、大会運営のスタッフ等と協力して本大会の実施に努めて参りたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

教育委員は当日、例年どおりの参加となるのか。

(竹内スポーツ課長)

例年、開会式に参加いただいているところであるが、今回暑さ対策ということで時間も早まっていることから、これを機会に開会式には参加いただかない方向で考えている。

(山口委員)

自由に応援等で会場に出向くのは良いか。

(竹内スポーツ課長)

問題ない。

(靱山委員)

3つの変更点は、ランナーがより楽しめるようにご検討頂いた結果であり、感謝したい。昨年度、児童生徒の参加者数減少の対策として、市内の全児童生徒に対してチラシ配布や部活動単位での参加依頼を行ったことで、参加者増加に繋がったという報告をいただいたが、今回も同じように取組むのか。

(竹内スポーツ課長)

より多くの方に参加していただきたいので、また同じような取組みを行っていきたい。

(靱山委員)

昨年、参加した児童に伺ったところ、来年はこうなりたいと目標を持っていたようだったので、より多くの児童生徒たちが参加するよう、周知をこれからもお願いしたい。

【公開案件】報告事項

(4) 釧路市動物園及び所管施設における展示動物の動向について

(平野ふれあい主幹)

報告事項4、釧路市動物園及び所管施設における展示動物の動向について報告する。

釧路市では、北海道に生息する希少鳥類の保護増殖に取り組んでおり、今年動物園ではシマフクロウ2つがいから計3羽とタンチョウ1羽、丹頂鶴自然公園では、タンチョウ1羽の繁殖に成功している。

はじめにシマフクロウでは、非公開ケージで飼育しているオスの「フラト」とメスの「ラライ」のつがいから2月下旬に2卵産卵していることを確認し、その後、4月1日に1羽、翌日2日にもう1羽が孵化した。この2羽はすでに5月中旬に巣立ちをしている。

もう1つがいは、公開ケージで飼育展示しているオスの「R黄」とメスの「アオイ」から、3月10日に1卵産卵していることを確認し、4月17日に孵化した。こちらは巣立ちが6月上旬の予定となっている。

動物園におけるシマフクロウの繁殖は2022年以来2年ぶりとなり、フラトとラライのつがいでは6、7羽目のヒナ、R黄とアオイのつがいでは、初めてのヒナ誕生となる。

続いて、タンチョウでは、動物園の非公開ケージで飼育しているオスの「コウ」とメスの「アミ」のつがいから4月9日と12日に2卵の産卵、そのうちの1卵から5月13日に、

ヒナ1羽が誕生した。動物園でのタンチョウの繁殖は、こちらも2022年以来2年ぶりとなる。

次に、所管施設である丹頂鶴自然公園では、5月6日にオスの「クー」とメスの「タカミ」のつがいから1羽のヒナが誕生した。

産卵をしたのは別のつがいであるが、若いペアであるクーとタカミに子育ての経験をさせるために托卵したものとなっている。

今後も希少種であるシマフクロウとタンチョウの保護増殖事業に基づき、飼育下の繁殖を進めていきたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

シマフクロウのヒナが生まれたということであるが、今後の見通しを教えてください。

(平野ふれあい主幹)

まだどこで展示するかは未定であるが、保護増殖は釧路市動物園ばかりではなく、道内の丸山動物園や旭山動物園等も協力して行っているので、いろいろな形で保護増殖につなげていけたらと思っている。

【公開案件】報告事項

(5) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項5、学校の現状について報告する。

4月の定例教育委員会は、校長会議よりも早く開催されたために、「信頼」の4月号に基づく学校の現状報告を行わなかったため、今回は最初に4月24日に発行した「信頼」の内容にも触れたいと思う。

4月の校長会議では、今年度、新たに市内の校長になった9名を含めて22名の校長の異動もあったことから、大きく次の2点について、年度のはじめにあたって全体で確認をさせていただいた。

1点目は、今年度、数多くある教育課題の中でも「学力向上」「小中連携」「不登校対応」の3について特に重点課題と捉えて釧路市教育委員会は取組んでいくこと。

2点目は、パワハラを含めてあらゆるハラスメントの未然防止、施設管理や情報漏洩等を未然に防ぐ危機管理体制の見直しと危機管理意識の醸成、教職員の交通安全を含めて教育公務員としての服務規律の徹底について、今一度、各学校での確実な取組の徹底をお願いしたところである。

次に、今回の資料にあります5月15日発行の「信頼」5月号に基づいての報告に移りたいと思う。

GW明けから連日、1次訪問を全学校対象に現在実施している。これは教育指導参事と指導主事、もしくは総括指導主事と指導主事が各学校を訪問し、管理職や学力担当教員等と協議を行うほか、全学級全教師の授業を参観するもので行っており、本日までに市内26校が完了しており、このあと、6月定例市議会を挟みまして6月の末までにはすべての学校で実施をする予定である。

並行して、今年度も岡部教育長による学校訪問を実施しており、こちらは、今年度は教育長お一人で訪問し、本日までに18校が完了している。

このほかに、釧路教育局の事業として、義務教育指導監と教育指導参事による学校経営訪問や、齋藤学校教育部長と森次長が主に中学校を中心に先ほど報告した1次訪問に同行して授業参観することも現在実施している。

これまでの学校訪問の様子を共有した限りでは、授業改善であるとかクロームブックの授業での使用は進んでいると一定の評価をすることができるが、一方では話し合い活動や端末の利用がはたして効果的な場面で、効果的に行われているのかどうか、釧路市教育委員会としては端末の持ち帰りを推奨しているが、実際にはまだまだ十分に行われておらず、持ち帰らせたとした場合の効果的な利活用についての宿題や家庭学習の在り方など、早急に吟味しなければならないことも多いということも確認している。今後スピード感を加速させて各学校に適切な指示・指導と情報提供を行って参りたいと考えている。

学校訪問の際には学校図書館の見学も行っているが、工夫を凝らしているところとそうではないところの差がだんだん大きくなってきたという実感も捉えている。必要な情報提供を行いながら、子供の活字離れの防止や魅力ある図書館運営、読書習慣の定着、などについても、学校間での情報交流も含めて、学校図書館運営の充実に努めて参りたいと考えている。

長期休業中の学習サポートについては、従来から夏冬それぞれ3日間程度ということで全学校にて取組んでいたが、コロナ禍の後、日数の解釈にばらつきが見られ始めていることから、今年度から最初の計画に戻して、原則夏冬3日間ずつにしようとお願ひしたいということも各学校に確認をしたところである。

小学校では6月に入るとこれから、運動会シーズンを迎える。早い日程の学校では、もうその取組みに入っている学校もある。

中学校では現在、修学旅行や宿泊研修が行われて、おおよそ一段落つき、6月に入ると毎週末、中体連各種大会が行われる。

◎この説明について、各委員からの次のとおり発言あり

(大山委員)

端末の持ち帰りが、この後も課題になってくると思う。中学校区で小学校による違いが出てきて、片方の小学校は持ち帰らせて、片方は持ち帰らせないという状況があると思うので、中学校区の中でまず話し合いをし、持ち帰る方向で進めていただきたいと思っている。今年度末には、大半が持ち帰るという形になるよう、校長先生方に周知していただきたい。

(本川教育指導参事)

その件については、現在行っている学校訪問の中でも確認しているところであり、小中ジョイントを基本として、中学校区で同じ対応をするよう学校に要請をしているところであるため、引続き取組んでいきたい。

(山口委員)

説明の中で、今年の実施の重点の一つとして不登校の子どもに対する対応ということで話しがあったが、先日、教育委員4名で、鳥取小学校内に開設されたまなびや鳥取を見学した。これにより城山小学校と、鳥取小学校の2か所に開設されたことになるが、人的配置等も含めてとても充実してきているという印象を持った。しかし、鳥取のコミュニティセンターで開設していたときには、校門を通らなくても良いことからなんとか通えていたが、それが鳥取小学校に場所を変えたことで、鳥取小学校の校門をくぐり、まなびや鳥取に登校しなければならないことから、その子にとっては高いハードルとなり、登校できなくなったという例もあると聞いた。学校ではなく、コミュニティセンターだから通えたという子どもも、今後もケースとして出てくると思われるので、そういう子どもたちへの配慮も検討してほしい。

また、図書室の有効活用ということで写真が掲載されており、魅力的な展示だと感じる。私に関わっている中学校の図書室は、非常に不便なところにあり、そこに子どもたちが行って、本をたくさん読むというのなかなか難しいのではないかなと思う。図書室をどこに置いたら子どもたちが利用しやすいのかという部屋の配置も含めて、今後検討していただければと思う。

(本川教育指導参事)

1点目のまなびや鳥取の移設については、以前にも報告があったとおり、大変手狭になっており、端末の利活用を中心とした授業を行う場合においても、Wi-Fiの問題があることから、それらを緩和するためにどこかの校舎に移転することはできないか検討した結果、鳥取小学校の一部をお借りすることとなった。これについては、従来、不登校学級で発足した、さわやか学級と青空学級が、当時旭小学校内に設置されて、多くの児童生徒が通っていたが、閉鎖により次に中心部に近い学校ということで城山小学校に移り、それがふれあい教室と一緒に、今のまなびやというスタイルになったのは既にご案内のとおりであるが、そのときに、主に中学生の不登校生徒が同じ制服を着た中学校の校門をくぐるにはハードルが高いが、小学校となれば低くなるだろうということで、旭小学校、城山小学校に設置した経過はこれもお案内のとおりである。そこで今回、鳥取小学校の校舎を選定したが、さきほど指摘があったようなケースについては十分検討していくが、もう一度コミュニティセンターに作るということにはならないと思われる。そういった子どもたちの心のケアやカウンセリングで解消できるよう担当者と詰めて参りたい。

2点目の図書室の有効活用については、私たちも学校訪問をしている中で、図書室に鍵がかかっており、必要なときだけ開錠する学校や、薄暗いところに図書室があるという学校があることも否めない事実である。学校と協議し、より開かれた図書室を運営できるよう努め

ていく。ただ、図書室の配置については、普通教室の配置とは違うものであることから、今後、どのような方向で解消していくか研究して参りたい。

(山口委員)

鳥取小学校はまなびや鳥取に対し、非常に協力してくれており、仕事がしやすいとまなびや鳥取の担当者が話していた。、スペース的な提供も、鳥取小学校側が我慢してでも使うようにと協力体制は非常にうまくいっていると聞いている。

(岡部教育長)

不登校対策というのは、令和8年度を予定している学びの多様化学校が開設したとしても、それが全ての解決ということではなく、個々の子どもたちにとっては、全て状況が異なることから、今後とも、先生方と連携を取りながら、対応できるような取組みをしていかなければならない。

図書室については、学校ごとに相当差異があると感じる。ここの学校はボランティアの皆さんの協力も得ながら、力が入っていると感じる学校もあれば、ここの学校は全く力が入っていないと感じる学校もある。ただ、少なくとも言えるのは、学校図書室というのは、館長は校長なので、その自覚が果たしてあるのかどうかと思う。

(小出委員)

まなびや鳥取に行ったときの感想として、鳥取小学校の先生方がとても協力的で、鳥取小学校の先生方と、まなびやの先生方の連携が上手くとれていると感じた。在籍している子の内、全ての子が通えているわけではなかったが、その中でも、頑張って通っている子がそのときも来ていた。その子は、まなびや鳥取だから通えているというところもあり、一生懸命通っていると思うが、中学生ということで、進路も見据えてそこで終わりではなく、高校に行ったとき、ここまで手厚く先生たちにさせていただいていたことが途切れることになるため、本人や親からしてみると不安は大きいのではないかと感じた。

それと、図書室のことだが、掲載されているのはどこの学校か教えてほしい。

(本川教育指導参事)

今回の「信頼」に使わせていただいた写真3点とも美原中学校の図書室である。ディスプレイにも非常に力を入れている学校も増えてきており、本屋さんのようにポップを使い、読みたいと思わせる飾りつけをしている学校も増えてきているので、このほかにも機会があるごとに紹介していきたいと思う。

(小出委員)

美原中学校は職員室の前に図書室があったかと思う。山口委員の話しにもあったとおり、場所は重要であると感じる。学校図書室の管轄は生涯学習課ではないが、双方連携して、中学校の図書室を活性化する方向に、行っていただけたらと思う。

(岡部教育長)

私も学校訪問の際に、図書室を見るようにしているが、話を聞いている中で、ここの図書室は整備されているなど感じる図書室には、必ずボランティアの方や先生、生徒等のキーパーソンがいる。今日行った学校も約10年間、一生懸命整備を行ってくれている方がおり、

挨拶させていただいた。今後も地道に、取組んでいかなければならないという課題である。

(山口委員)

美原中学校は職員室の前で、桜が丘中学校の図書室も職員室の前辺りである。今後、校舎の利活用ということを考えたときには、そういった視点も必要であると思う。